

# 組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名：

工学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p><b>①-1 目標</b></p> <p>「教育の実施体制について」                      (1)低学年での工学部共通コア科目を継続実施                      (2)工学教育外部評価委員会の継続開催と指摘事項の改善検討                      (3)岡山県工学教育協議会に参加し、工学教育に関する検討                      (4)ピアレビューの継続実施                      (5)表彰(教育貢献賞とベストティーチャー賞)の継続実施                      「教育方法・内容について」                      (6)経済学部との協力による合同科目「実践的コミュニケーション論」、「ものづくり経営論」を継続開講                      (7)工学部共通コア科目の教育環境を整備するとともに、内容についても引き続き改善を検討                      (8)教育年報の発刊                      「教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について」                      (9)例年通り、極まれな例外を除き卒業生全員を大学院進学(約2/3)および就職させること                      「学生支援について」                      (10)学生フォーミュラ、ロボコン研究会活動への支援                      (11)就職支援活動「機械系エンジニアの歩き方」「卒業生との就職意見交換会」の継続実施など、各学科での就職支援強化                      「その他」                      (12)入試広報に例年通り力を入れる(オープンキャンパスで女子生徒を対象としたプログラムの実施、フロンページ主催の夢ナビプログラムへの参加、工学フォーラム2013への参加、新聞(読売、日経等)を利用した岡山大学工学部としての情報発信、工学部独自の出前講義をはじめとする高大連携事業での学生の派遣、岡山県内高等学校理数科系教員との懇談会、高等学校進路指導担当教諭との懇談会、岡山大学と工業系高校との教育懇談会など)</p> <p><b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>(1)志願倍率(学部入試倍率:前期日程)の目標を2.3倍とする。                      (平成24、25、26年度は2.6、2.2、2.3倍であったため、減少することが予想されるが、現状維持にとどめたい)</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>目標で掲げた左記の内容をすべて実施した。                      さらに、目標として記載した項目以外に新たに以下を行った。                      (A)引き続き、教育見直しLWGにおいて、4学期制や60分授業への対応、教養教育および専門教育の改革について検討した。                      (B)教員会議のときに、ベストティーチャー賞受賞者に、約10分程度で教育効果を向上させる工夫やポイントを説明してもらうことにした。(従来からの、受賞者による公開授業は継続)</p> <p>目標とする客観的指標については、志願倍率(学部入試倍率:前期日程)は2.4倍であり、昨年度2.3倍を上回り、目標2.3倍を達成できた。4学科すべてで2倍以上の倍率となった。                      なお、推薦入試や後期日程については、募集人数が少ないこともあり、2倍を下回る学科もあった。その対策は今後の課題である。</p>
<p><b>②研究領域</b></p> <p><b>②-1 目標</b></p> <p>「外部研究資金等の獲得の推進」として、以下を継続実施する                      (1)研究成果(論文など)の公表(工学部研究年報:H25年度分から教員評価システムとリンクさせている)                      (2)教授会での外部資金獲得状況の報告(毎月)                      (3)科研申請状況の把握と申請の依頼                      (4)科研申請の支援(研究科と協力して実施)                      (5)産学連携推進委員会の開催                      (6)表彰(研究功績賞)の継続実施</p> <p><b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>(1)科研申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当する。ただし、特別な理由がある教員を除く)を目指す。                      (2)科研新規採択率30%以上を目指す。                      (3)外部資金獲得(共同研究、受託研究、奨学寄附金)の前年比5%増加を目指す。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>目標で掲げた左記の内容はすべて実施した。                      目標とする客観的指標については、以下の状況であった。                      (1)科研申請率は100%であり、目標を達成できた。今後も、研究科と連携して、向上に努めたい。                      (2)科研採択率は26.5%であり、昨年(24%)を上回ったものの、目標(30%以上)を達成できなかった。研究科と連携して、向上に努めたい。                      (3)外部資金獲得は、昨年度に比べ、以下の状況(2月末現在)にある。                      ・共同研究(件数105%、金額92%)                      ・受託研究(件数83%、金額179%)                      ・奨学寄附金(件数131%、金額143%)                      合計として、件数は107%と増加、金額は147%と大幅に増加し、目標を十分達成できた。</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p><b>③-1 目標</b></p> <p>「海外の大学との交流事業の推進」として以下を実施する。                      (1)ミャンマーとの連携について、関連他大学とともに推進(研究科と協力して実施)                      (2)ウエイン州立大学、サンゼ州立大学との研究における関係強化(研究科と協力して実施)                      (3)エラスムススムドス(EUと日韓)による学生および教員交換制度の活用(研究科と協力して実施)また、以下を継続実施する。                      (4)地域の小中学生向けの工学実験教室                      (5)杭州市内と岡山県内の地域の小中学生向け体験型実験教室の開催                      (6)産官学が連携した研究会の事業(岡山情報通信技術研究会など多数)                      (7)国立大学53工学系学部長会議下の大学連携推進委員会に協力                      (8)表彰(社会貢献賞)の実施</p> <p><b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>左記の項目をすべて実施した。                      (1)に関しては、自然科学研究科と協力して、ミャンマーから5名の教員を博士後期課程の学生として受け入れるとともに、先方から表敬訪問団の受け入れをした。                      (2)に関しては、自然科学研究科と協力して、ウエイン州立大学から2名の教授を招聘して講義を開講するとともに、サンゼ州立大学を2回訪問して国際共同研究の可能性について協議した。                      また、(7)に関しては、国立大学53工学系学部長会議の大学連携推進委員会の委員として、工学フォーラム2014を催し、好評を得た。</p>
<p><b>④管理運営領域</b></p> <p><b>④-1 目標</b></p> <p>「教育研究組織の再編」として、以下を実施する。                      (1)学部大学院融合会議(自然科学理工系執行部会議)の継続                      (2)自然科学研究科における医工連携新専攻設置に関する協力                      「効果的な予算配分と経費削減」として、以下を継続実施する。                      (3)会議関連の効率化(資料のPDF化と事前配布、最長2時間、17時以降は原則禁止)                      (4)電力、ガス使用量・金額の評価体制確立                      また、教員間のコミュニケーション円滑化と情報共有化、意識改革を図るため、以下を継続実施する。                      (5)教員会議(全教員対象、年4回)の実施(継続)                      (6)「工学部長室だより」電子メールの配信(毎月)(継続)                      (7)教員研修会実施の検討                      (8)教職員からの意見箱設置(継続)                      (9)准教授会の開催(継続)</p> <p><b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>左記の項目をすべて実施した。さらに、目標として記載した項目以外に新たに以下を行った。                      (A)(7)の教員研修会については、12月に教授研修会(意識改革を目的として1泊2日で大学改革に関して議論)、3月に准教授等研修会を実施した。教員の意識が高まったと感じられた。</p>
<p><b>【総括記述欄】</b></p> <p>各目標は、以下の状況である。                      (1)志願倍率(前期日程)は、目標(2.3倍)を0.1上回った。昨年度の倍率(2.3倍)より向上でき、目標を達成できた。ただし、推薦入試や後期日程で倍率が2倍に達していない学科があったので、その原因分析を行い、来年度の活動に反映したい。                      (2)科研の申請率は目標を達成できたものの、採択率は目標を達成できなかった。研究科と協力し、改善してゆきたい。                      (3)共同研究、受託研究、奨学寄附金等の外部資金獲得については、目標を十分達成できた。今後も継続して強化してゆきたい。                      目標として記載した項目以外に、教授研修会および准教授研修会の開催、ベストティーチャー賞受賞者に対して、新たに、教員会議で10分程度で工夫した点などポイントを紹介してもらうようにした。                      各項目については、上記に記したように積極的に検討、あるいは実施した。</p>	